

進んで活動する姿

続けて最後まで
する姿

目的・目標を持って
活動する姿

友だちと学び合う姿

深く考える姿

実践事例 高等部

『自分から問題に取り組んで
数と数の動きを頭の中で操作して立式しよう』

1. 生徒の実態と望む姿

- ・高等部1年生 男子
- ・自分で決めた仕方(問題の解き方や道具の扱い方等)にこだわることもある
- ・初めての問題や、問題の意味がわからないときに、問題に取り組まないことがある
- ・足し算や引き算の問題で、逆の式を立てたり、「わかりません」と言ったりする

そこで本題では以下の望む姿を設定した。

→**教具を操作して問題のものの数をイメージしながら立式し、続けて問題に取り組んでほしい**

2. 教材の概要 教材：『バイキングをしよう！』

- ・食べものをもろう、食べる、食べ物と皿の個数の違いを求める問題を解くと、自分のほしい食べ物のシールが得ることができる仕組みの教材

3. 授業のポイント

ポイント1 学習したことを活用しながら問題に取り組むための題材計画の工夫

【できることを増やしながら、それを使い問題に取り組めるようにするために、題材計画はどうすればいいかな？】

合併(加法)
「合わせて」

増加(加法)
「増えると」

加法
混合問題

求残
「残りは」

求差
「どちらがどれ
だけ多い」

減法
混合問題

加法
減法
混合問題

二次

三次

一次は、教材の仕組みや教具の使い方を知る。
二次ではその時間で何ができるようになればよいか生徒がわかるように、扱う内容を一つにしぼることで、生徒が目標を持って授業に取り組むことができるようにした。
三次では二次でできるようになった問題を混ぜて出題し、問題に合った立式ができるようにした。

授業構想チェックシート 内容チェック 2. 題材計画について ②③
意欲チェック 2. 題材計画について ⑥⑩

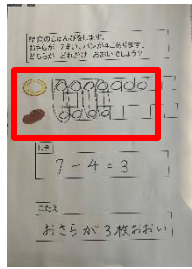
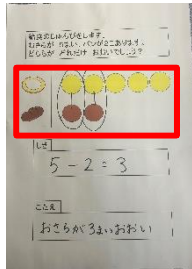
ポイント2 数の動きを頭の中で操作するための教具の工夫

【ものの数の動きを頭の中で考えられるようになるために、教具はどう変化させればいいかな？】

教具①

教具②

教具③



教具①: ホワイトボード上でマグネットを操作する
教具②: ものの個数をドットで示し、線で結んだり、斜線を引いたりする
教具③: 問題を読んで、自分で数を確かめて口の中に印をつけて
教具②と同様に操作する

自分で実際にものを動かす操作から、頭の中でのもの数と動きを操作できるように、教具を①→②→③と変化させた。

授業構想チェックシート 内容チェック 5. 学習環境: 教具について⑤
意欲チェック 5. 学習環境: 教具について⑨⑩